



「ありがとう」

子どもが適切な行動をしたとき、「よくできたね」「えらいね」といった“評価”の言葉ばかりを返していませんか？「ありがとう」「うれしい」といった素直な気持ちも伝えましょう。そうすることで、進んで力を発揮しようとする前向きな気持ちが育ちます。



「どうしたの？」

子どもが普段と違う「後ろ向きな態度」を示したとき、いきなり「きちんとしなさい!」という言葉がけをしていませんか？困っているのは子ども自身。なにか理由があるはず。「どうしたの？なにかあったの？」から始めてみませんか。

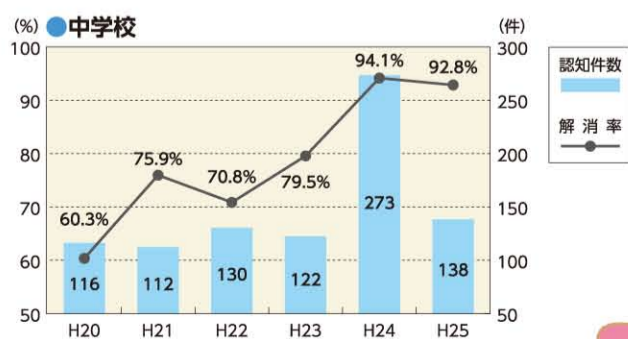
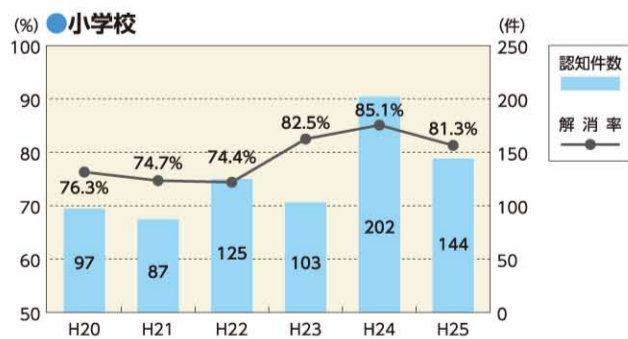
豊かな人間性・人間関係を育む

統計でみる岡山市の現状

いじめを積極的に認知し、早期解決につなげています。

本市では、学校の教職員や周囲の大人がいじめを積極的に認知し、早期対応をていねいに行うことがいじめの深刻化を防ぐことにつながると考えています。いじめの認知件数の増減のみに注目するのではなく、いじめの解消率（いじめの解消が図られた割合）を高めていくことを目指して取り組んでいます。

〈岡山市におけるいじめの認知件数と解消率の推移〉



〈出典〉「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)による

未然防止と初期対応に重点
平成25年、国においていじめ防止対策推進法が制定されました。それを受け、岡山市でも本年8月に「岡山市いじめ等の問題行動及び不登校の防止に関する基本方針」※を策定しました。
問題行動や不登校は、発生してから対処するだけでなく、その兆候をより早い段階で積極的に見つけ出し、初期対応をていねいに行うこと、また、未然

子どもの声に耳を傾けて
子どもが自己存在感を失っていき、問題行動や不登校につながる場合があります。子どもが自己存在感を失っていき、問題行動や不登校につながる場合があります。子どもが自己存在感を失っていき、問題行動や不登校につながる場合があります。

次のページでは、豊かな人間性や人間関係を育むために、岡山市が推進している取組を紹介していきます。



いじめ、暴力行為、不登校は相互に関連。一体的な防止と早期解決に向けて

防止となる集団づくりや居場所づくりを行うことが肝心です。そのため、今年度から、岡山市立の全小中学校で児童生徒の学級満足感や学級への適応感を測るアンケート(2面で紹介)を実施。一人一人の意欲や満足度などを数値化することで学級や個人の状態を把握し、よりよい集団づくりに生かす取組も始めました。

※基本方針について、詳しくは、岡山市教育委員会指導課のホームページに掲載しています。

豊かな人間性・人間関係を育む

子ども・先生・保護者の学び合い

みんなで育もう、子どもの心



子ども一人一人の豊かな人間性や前向きな人間関係を育むためには、子ども自身はもちろん、教師や保護者など周りの大人たちも、よりよいかかわり方を意識して学び、感性を高めることが重要です。ここでは、それぞれの学びを取り上げ、その活動を取材しました。あわせて、4面では地域での活動や家庭での取組のヒントもご紹介します。

教育相談研修講座(グループエンカウンター)から

レポート

クラスが替わって間もない学年の始めは、児童生徒にとってドキドキとワクワクが入り交じる緊張の時期。友達ができるかな?といった不安定な心理状態で集団生活がスタートします。新しい人間関係を築きながら、ともに喜び、失敗したときは仲間が励ましてくれる、そんな居心地のよいクラスにするために担任はどうすればよいか。芳泉小学校の佐藤満教諭の指導のもと、同センターで研修が行われました。

「グループエンカウンター」は、グループゲームやワークを通して人間関係づくりの力などを育てる手法。研修では、「あなたにとって信頼できる仲間とは?」など、用意された質問に答えていくことで、相手の価値観を知り相互理解をはかる「UN(アン)ゲーム」(自己表現ゲーム)をはじめ、与えられた課題を他者と協調しながら完成させる演習を行い、自己理解・他者理解・自己開示能力を育てるプロセスを学びました。

「最近では、自分の思いばかりを主張し相手との合意がとれず、結果として仲間づくりがうまくいかない子どももいます。今回の研修では、互いを認め合う経験を通じて、共感的な雰囲気やクラスメイトと気軽に話せる安心感や親近感を生みだすことをねらいとしています」と佐藤教諭。

相互理解と安心感に根ざした学級づくりを

教職員研修 先生

岡山市教育研究研修センターでは、教職員の資質能力の向上を目的に、さまざまな教育課題に沿って研修を行っています。よりよい学級づくりのための実践や生徒指導のポイントなどを教職員が具体的に学び、学校での子どもの指導に生かしています。



Qクラスの集団づくりで、一番伝えたいことは?

子どもは大人(教師)の言うとおりに決まるとは限りません。大切なことは「直そうとする。分かってほしい」ということ。あおしてやろう、こうしてやろうと変化を期待するのではなく、まずは一対一で子どもをしっかりと理解すること。教える前に、信頼関係を築くところから集団づくりを始めてほしいですね。



佐藤 満 教諭 芳泉小

Q研修に参加した感想は?

教育相談(面接)の実演を見させていただく中で、新しい手法がとても参考になりました。これからは言葉だけのコミュニケーションではなく、「表情カード」などの材料をうまく活用して、子どもの置かれている状況や心理状態を知り、一人一人への理解を深めていきたいと思っています。



高見 文子 教諭 芥子山小



用意された質問に順番に答えていく「UNゲーム」は、相手がどういう人なのか、考え方や性格を知るきっかけになる

今年度から全校で実施

学級や子どもの現状を知るアンケート

ハイパー hyper-QU/ASSESS

心の健康診断 みたいなものだね!

本市では、小学校で「hyper-QU」と「ASSESS」等、中学校で「ASSESS」という子どもたちの学級への満足感・適応感の尺度となるアンケートを今年度から全校に取り入れました。このアンケートの結果を一つの判断材料として、教師がこれまでの指導を見直したり、子どもたちへのより適切な指導や支援を行ったりすることで「共に成長し合う学級集団づくり」に生かしています。

アンケートにより、子どもの感度(今の状態)が客観的に分かります。その結果と生徒の日常生活の様子や教師の見立てなどを組み合わせることで子どもたちへの理解がより深まります。電線中学校では、モデル校として平成24年度から実施していますが、「あいさつをしよう」など、毎月、キーワードと目標を設定し、生徒の規律の確立を図る取組の評価材料としても活用しています。アンケートの結果は、取組を充実させるための一つの資料として活用する形がよいでしょう。



海野 行博 教諭 (電線中)

創作紙芝居 子ども

本市では、毎年、幼稚園や保育園で制作した創作紙芝居を「岡山市どろんこ教育賞特別賞」として表彰し、受賞した作品を市役所に展示するとともに、教育長や幼稚園教諭がその読み聞かせを行う取組を行っています。子どもらしい発想で、思いやりや感謝・命の大切さなどをストーリーに盛り込み、友だちと協力しながら紙芝居を制作する過程を通して、豊かな表現力や道徳性を育てています。



Q子どもとの関わりで心掛けていることは?

4歳児はまだ話をまとめていく力がないので、「この場面にはどんなものがあるのかな?」という問いかけで、子どもたちの思いや発想を引き出すよう工夫しています。どの子も絵を描きながら、口々にお話をきかせてくれます。表現する楽しさや喜びを感じてくれるとうれしいですね。



瀬切 さやか 幼稚園教諭 4歳児クラス担当

Q何を描いているのかな?

ようかいの赤おにが、まっつぽっくりを食べてしまったら、ぶどうにかわったところをかきました。



まつもと ゆうた さん 4歳

Q何を描いているのかな?

ねこが魚を食べているところ。みどりのお魚が、いけの中だけではねえよ。



たなか みずき さん 4歳

幼稚園児が絵や言葉でイメージの世界を豊かに表現

北区の吉備東幼稚園では、年中(4歳と年長(5歳)の園児が創作紙芝居に取り組んでいます。

「紙芝居の活動の大きなねらいは、自分の思いを表現し、伝え合う力を育てること。みんな一つのものを作り上げていく過程の中で、子どもたちが互いに心を通わせる体験ができれば」と近藤仁実園長。

「魔法」をテーマに、登場するキャラクターやストーリーを子どもたちが絵や言葉で表現。場面を理解し合いながら、全体のイメージをまとめていきます。

4歳児の紙芝居は、動物たちが散歩をしている途中、いろいろなものに出会い、出会った



紙芝居の中にパターンを組み合わせて創作

4歳児が思い思いに描いた絵



5歳児クラスでは、それぞれの発想をみんなで共有しながらストーリーを作り上げています

ものが妖怪のいたずらで形を変えていくというストーリー。子どもたちは、登場するものや背景などを想像しながら描き、先生がその思いをくみ取りながら、連想される場面の中に組み合わせていきます。

一方5歳児は、園でカエルを飼育した経験を生かし、主人公のカエルが魔法の呪文を唱えてさまざまな冒険をするという物語。自分の発想を伝えるだけでなく、先生や友だちの話にも耳を傾け、共感しながら表現の世界を膨らませています。



紙芝居の中にパターンを組み合わせて創作

4歳児が思い思いに描いた絵



5歳児クラスでは、それぞれの発想をみんなで共有しながらストーリーを作り上げています

散歩しているウサギがニンジンと出会う場面だよ! ニンジンは何に変わるのかな?

幼稚園のことは、「こらぼん」の妹の私「ももこ」が伝えていくよ!



PTA人権問題 研修講座 保護者

いじめ・暴力行為・不登校・虐待など子どもをめぐるさまざまな課題の解決に向き合う際、その前提となるのは「子どもを一人の人間として尊重すること」。本市では、子どもの自立を図る家庭教育のあり方や「親の学び」の必要性を呼びかけ、さまざまなテーマで研修を行っています。



子どもの気持ちをそのまま受け止めて

いじめは一人の子どもの心を取り返しがつかないくらい傷つけるものです。いじめの本質は子どもが置かれている社会環境や集団の質の問題であって、「子どもが起すもの」という大人の価値観や前提で考えるのは間違いです。子どもの視点に立って、子どもが感じているありのままを共感する「まずは、いじめで苦しんでいる子どもやいじめを見た子どもが、いつでも大人に相談できる環境を作ることが大切です。」

また、子どもは愛されていると実感できると、自他を尊重できるようになり、それが自立につながります。大切なのは「支える」姿勢。むやみに指導しよ

うとしたりお説教をしようとしたりすると失敗がちです。実際、大人の勝手な押しつけや独善が、子どもの命の輝きを失わせているケースは少なくありません。大人に「させられた」とことは無力感が伴います。子どものことは子どもから学ぶ。大人が邪魔をしない限り、子どもは自分で解決する力を持っています。(講演から一部要約)



子どもセンター「パオ」理事長 弁護士 多田 元 さん

「子どもに耳を傾けて～子どもの視点で考えるいじめ、虐待、非行」から

講演

地域や団体

さまざまな団体や地域の方も子どもたちの育ちを支えています。

豊かな人間性・人間関係を育む

①いのちを育む授業

in 岡山市立旭東中学校

赤ちゃんに触れて命の尊さを学ぶ

中学生が赤ちゃん、お母さんと触れ合い、命の温もり、尊さ、子育ての大切さを学ぶ「いのちを育む授業」。市保健所、市教育委員会、市愛育委員協議会等が協力して、市内8中学校(平成26年度)で開催しています。事前に赤ちゃんについて勉強した上で、生徒たちはボランティアで参加したお母さんから体験談を聞いたり、実際に赤ちゃんを抱かせてもらったりして交流します。旭東中学校で行われた授業では、20組を超える親子が参加。最初は緊張し



た面持ちで赤ちゃんを抱いていた生徒たちも赤ちゃんのかわいらしい笑みや温かみに触れ、次第に笑顔に。ほ乳びんでミルクをあげたり、一緒に遊んであげたりと赤ちゃんとの時間を楽しんでいました。



赤ちゃんに実際に触れることは、子育てを知る上でとてもいい経験になります。中学生の時期は親子の会話も少なくなるので、この授業を通じて、自分が赤ちゃんだったとき、どれだけの愛情を受けて育てられてきたのかを改めて実感してもらえればと思います。



岡山市愛育委員協議会会長 好長 シゲ子さん▲

赤ちゃんに負担をかけないよう気をつけて抱っこしました。抱っこだけでもこんなに難しいのに、赤ちゃんに合わせて生活しているお母さんは大変だと実感しました。

▲次田 美穂さん(旭東中3年)

参加した親子

身近に赤ちゃんがいる環境が少なくなっているの、中学生にぜひ体感してもらおうと参加しました。小さな命の尊さを伝えることも自分の大切な使命だと思っています。



森近 麻衣さん
吉くん9か月▶

②家族ふれあいフェスティバル

in 日応寺自然の森スポーツ広場

自然と触れ合い、家族の時間を満喫

少年自然の家、市連合婦人会、市教育委員会が主催し、地域の小中学校や団体、企業などと連携して「家族ふれあいフェスティバル」を開催しています。この行事は、野外活動を通じて家族の触れ合いを深めて



もらおうと、毎年秋に開いているもので、今年は約5,000名が参加。秋晴れの中、わくわくウォーキングや香和中学校吹奏楽部の演奏、葉っぱのしおりや木のキーホルダーなどのクラフトづくり、風船アートなど、さまざまなイベントが繰り広げられました。会場にはマスカット・野菜などの地

元生産者らもにぎやかに出店。さわやかな秋の一日、思い思いに野外遊びや会食を楽しむ親子の姿が印象的でした。



参加した親子

去年に続いて今年も参加しました。食べものもいろいろあって楽しいです。

▶左から
左直 梨子さん(横井小2年)
池上 怜華さん(伊島小3年)
池上 仁さん(伊島小2年)
後列 左直 芳草さん



地域の方々のご協力のもと、回を重ねるごとに毎年盛大になり、地域のお祭りとして親しんでいただいています。今後も子どもたちや家族が喜ぶ行事にしていきたいですね。

▲岡山市連合婦人会副会長 安井 貞子さん

人間関係づくりのヒント

相手の気持ちに 耳を傾けてみませんか?

～「傾聴」のすすめ～

ただ単に「きく」場合は、一般的に「聞く」という字を使います。それに対して、注意深く、あるいは進んで耳を傾ける場合は「聴く」を使います。「耳に十四の心」と書くように、心からありのままをきくという意味になるでしょう。

「聴く」を求めている人に対して、私

たちは「聞く」になっていないでしょうか。目の前にいる相手に関心を寄せ、その人のありのままを受け入れることが大切です。そんな時間を重ねることにより、相互の信頼も深まり、やさしい気持ちでコミュニケーションをとり合うことができるのではないのでしょうか。

「傾聴」で大切にしたいこと

- ①相手のペースを尊重し、うなずきながら聴きましょう。
- ②話す人に体だけでなく心向けましょう。
- ③その人の話を最後まで聴きましょう。聴くことによって得た情報を、聴いた側が復唱することも、「あなたの気持ちをしっかり受け取りましたよ」というメッセージになります。



ご意見 ご感想を お聞かせください!

「こらぼVOL.3」に寄せられた
ご意見・ご感想

ESDという言葉をよく耳にしますが、今回のこらぼを拝読して理解できました。難しく考えずにわが家でも子どもたちとともに何か続けられることに取り組んでいこうと思います。(40代)

公民館を拠点としたESDの取組が興味深かったです。バリアフリーの場所で世代を超えて触れ合える場も岡山市にはたくさんあります。私のふるさと岡山に、多くのコラボを広がってください。(60代)

「めだかの学校」の体験がとても楽しそうでした。山菜採りやお箸作りなど、家族ではなかなかできないような体験ができるんですね! 今、初めての妊娠中なのですが、わが子が小学生になる頃まで続けてほしい企画だと思いました。(30代)

教育広報紙「こらぼ」へのご意見・ご感想をお寄せください。お寄せいただいた方の中から、抽選で図書カード1,000円分を5名の方にプレゼントします。

図書
カード

応募方法 〒、住所、氏名、年齢(または学年)、電話番号を明記の上、下記のあて先へご応募ください。

【はがき・封書】 〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1

岡山市教育委員会事務局教育企画総務課 行

【FAX】 086-234-4141 **【Eメール】** korabo@city.okayama.jp

応募締切 平成27年1月31日(土) 当日消印有効

※お寄せいただいた個人情報は、業務目的以外には使用しません。※当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。



メール用